



一時帰国の際に、たくさんの絵本をご寄贈していただき、それらの本を新学期の始まった学校に持って行きました。この日は雨が降っていたこともあり、図書館入り口には学校創設理事と教職員数名がいて、数々の本を嬉しそうに見始めました。そして、絵本の活用のし方を話し始めました。図書館の本棚の整理整頓をする中で、紛失している本を私から報告すると、紛失させないための方法は教職員の中で話されるものの、こうして“この本は色がキレイだから色を覚えるのに使える”“動物がたくさん描かれているから名前を知るのに良い”“幼稚園クラスの先生に、子どもに読んでもらおう”などという話し合いはされてはなかったもので、絵本に対する取り組みが広がる予感がしました。新年度の9月は進級の月でもあり、1年生の教室にはつい2か月前まで園児だった小さな小さな子どもがたくさんいました。低学年まで定員数45名なのでざっと見40人はいたクラスで、新学期初の読み聞かせを行ないました。5羽いたあひるがお母さんあひるが呼び度に1羽ずつ減ってってしまうお話しです。“何羽になっちゃったかな？”減っていくことを理解した担任はニコニコしながら数を答えるけれども、さすがにまだ“減る”という計算を理解していない子どもたちは答えることが出来ませんでした。絵本は想像力を育むことが出来るものの一つです。絵本を通して数の理解、言語の理解を低学年の子どもに伝えていきたいと感じました。※動画2本有り参照

今回、一時帰国中に2002年にガーナで民間大使を務めてらっしゃった浅井和子氏よりグローバルサウスと絵本とサイエンスの会様をご紹介頂き、当時ガーナ学生日本ツアーの最中という事もあり、東京の滞在先で面談をしました。団体の4名の女性の方、そしてヨシケントラベルの栃木社長と、団体の最初のプロジェクトとなる“ガーナの子どもに絵本を贈ろう”に関する打ち合わせはもちろんの事、絵本の大好きな私がいう本のタイトルに深く頷いてくださったりと、絵本の事ををこんなにも話せたことが嬉しかったのです。また以前（2023年7月20日No11号）にて、昔ばなしの内容がコンプライアンスを気にしてか優しくなっていると書きましたが、その話しをすると、昔ばなしは「再話」されていくものと絵本について研究されている大学の准教授の方より教えていただき腑に落ちたのです。さるかに合戦やかちかち山に出てくる悪さをしたものはコンプライアンスとは無縁で再話により懲らしめられる結末ではなくなったのです。一時間の面談でしたがとても有意義な時間でした。

図書館建設サポーター 一般社団法人ギブアウェイ様

プロジェクトサポーター KAWASHO FOODS (GULF) FZE 様

フェリシモ基金事務局様 矢東タイヤ様

